

「しかし、アロンの杖は彼らの杖を呑み込んだ。」

7：12節

主は、モーセをイスラエルの指導者として立てられました。しかし、モーセは「私は口べたです」とか「同胞のイスラエルの民から信頼されていません」とか、弱音を吐いてなかなか主に従おうとはしません。それでも主は「わたしはお前をファラオにとって神とする。ファラオにイスラエルを去らせるように言え」と言われました。今、主はモーセにはっきりと伝えました。「自分の弱さを気にするな。イスラエルの支援を期待するな。ただ主だけを信じて強大なファラオの権力に立ち向かいなさい。」神様の命令に対して「否（いな）」はありません。ただ従わなければならないのです。そしてモーセとアロンは従いました。

——— 杖と蛇 ———

(8～12節、読む) そして今、モーセとアロンはファラオの前に立ちました。ミディヤンの田舎から出てきたボロボロの服を着ている二人が、エジプトの王の前に堂々と立ちました。そしてアロンは主の命令された通りに行いました。杖をファラオと家臣たちの前に投げました。それは蛇になりました。ところがエジプトの呪術者たちもまた、同様に彼らの秘術を使って同じことを行いました。

この時代、エジプトには蛇使いがいました。その蛇使いはある方法で蛇の頭をつかむと、それはステッキの形になったそうです。おそらく、呪術者達はその様な真似をしていたのかも知れません。ところがです、なんと「アロンの杖は彼らの杖を呑み込んだ」のでした。この奇跡は神様の力が呪法師達、いやその背後の悪い霊の力に勝利したことを示したのです。第2テモテ3：8節「・・・ヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、真理に逆らっており、知性の腐った、信仰の失格者です。」あのパウロは言いました。「この呪法師ヤンネ、ヤンブレの様に、神の業を表面的にまねだけをしてその本質を学ぼうとしない者は災いです。」世の中に神様の力を利用して、私欲を得ようとする者は多いのです。

——— 霊にはいろいろあります ———

さて、霊にはいろいろあります。聖書には「神の霊」(聖霊)と「人の霊」と「悪魔の霊」(悪霊)と「天使の霊」(ヘブル1：14節)が書かれています。霊には力があります。悪い霊も悪魔的な力を持っています。世の新興宗教はその力で、ある程度の奇跡は行えます。

それで、お金もうけをするのです。

昔、一人のおばあちゃん、膝が痛くて痛くて悩んでいました。私の所に来て言いました。「先生、とても有名な祈禱師が近くにいる、その方の所に行くとみんな治るんです。行ってもいいですか。」でも実はこれはとても怖い事なんです。癒されると、その癒された人は、その霊のとりこになります。体の癒し(治ったように見えても、もとに戻ってしまうことが

多いのですが)と引き換えに、魂がとりこになってしまいます。ですから、悪い霊のお世話になってはなりません。しかし、この霊はある所までは力を現わしますが、限界があります。

(8:18節)「呪法師たちも、ブヨを出そうと彼らの秘術を使って同じようにしたが、できなかった・・・」のです。私たち悪の力に目がくらんで騙されてはいけませんね。

さて、ファラオが心を頑なにして、イスラエルの人々をエジプトより去らせることを、なお拒(こば)んでいるので、主は、これより9回の災害をエジプトに送られます。

――― 第1の災害、血 ―――

(14~25節) (14~18節、読む) 第1の災害、それは水が血に変わったことです。

19節、「主はモーセに言われた。「アロンに言え。『あなたの杖を取り、手をエジプトの水の上、その川、水路、池、すべての貯水池の上に伸ばしなさい。そうすれば、それらは血となり、エジプト全土で木の器や石の器にも血があるようになる。』」その通りになりました。

20, 21節「モーセとアロンは主が命じられたとおりに行った。モーセはファラオとその家臣たちの目の前で杖を上げ、ナイルの水を打った。すると、ナイルの川の水はすべて血に変わった。ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなり、エジプト人はナイル川の水を飲めなくなった。エジプト全土にわたって血があった。」

もう1度読みます。(19節)「主はモーセに言われた。『アロンに言え。あなたの杖を取り、手をエジプトの水の上、その川、水路、池、すべての貯水池の上に伸ばしなさい。そうすれば、それらは血となり、・・・』」ここで、「水の上、川、水路、・・・すべての貯水池・・・」この様に、単語が繰り返されているのは、災害の範囲がどんどん広がって行って、非常に大きくなっていることが示されています。

元来、ナイル川はエジプト人にとっては神聖な川です。このナイル川にはオシリス、パピ神という神がいて、エジプト人は皆拜んでいました。毎年6月17日は「しずくの夜」と呼ばれその夜、天からイシス神の涙がしずくとなって落ちて、ナイルが増水すると信じられていました。この時に厳かな祭りが行われました。ファラオはこの様な宗教的儀式、礼拝をする為に、この朝ナイルの岸辺にやって来たと思われます。15節「見よ。彼は水辺に出て来る。」

今、モーセとアロンはそのファラオ、そしてエジプトの民の目の前で、そのナイル川に向かって奇跡を行いました。神聖なナイルがあつという間に血に変わりました。それだけでなく水は臭くなりました。魚は死にました。もちろん水は飲めなくなりました。

ガラテヤ6:7節「思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。」人は神の前に罪を犯せば、裁きを受けます。それは、神様がその人々に悔い改めをするようにと期待しておられるからです。

——— なおも強情なファラオ ———

(22 節、読む) それにもかかわらず、ファラオは強情でした。その時、エジプトの呪法師達も同じ様なことをしました。それを見た彼は、心を益々頑なにしてしまいました。残念ですね。

(23 節)「ファラオは身をひるがえして自分の家に入り、このことにも心を向けなかった。」

(24、25 節、読む) 彼は自分の間違っただ行動が、多くの人民に大きな迷惑をかけていることに気が付いていませんでした。あるいは気が付いても、責任を取るといような誠意はありませんでした。彼は、自分一人の行動が人々に迷惑をかけていることなどはどうでもよかったのです。伝道者の書 9：18 節「一人の罪人は多くの良いことを打ち壊す。」

以上、これらはナイル川を神として拝んでいたエジプトへの裁きでした。この体験を通してファラオは、どこかで、天地を創造された方、神様を感じたかもしれません。でも呪法師たちの魔術によって、目がくらませられてしまって、主に立ち返る事を妨げられました。なんとも残念なことです。

——— 災害の目的は ———

さて、今日は九つの災害の始まりと題して、第 1 回目の災害、ナイル川を血に変えた災害について学びました。でもこれから第 2 回目は、かえるの災害、その後、ぶよ、あぶ、家畜の疫病、うみが出る腫物、雷と雹（ひょう）、いなご、暗やみ、と続きます。

それにしても、この災害の目的は一体どこにあるのでしょうか？ 神様はただ敵に勝つために、力を現わすために、行っているわけではありません。災害を行っている目的はただ一つ、それは、ファラオにイスラエルの神様、主を知らせ、イスラエル人をエジプトから去らせるためなのでした。今、その目的に向かって確実に、神様の業は進んでいるのです。